

祝 環境省ローカルSDGs企業選出



2022年12月に、嬉しいお知らせが届きました。つるエネルギーは、環境省が主催するローカルSDGs企業に選出された、というお知らせです。

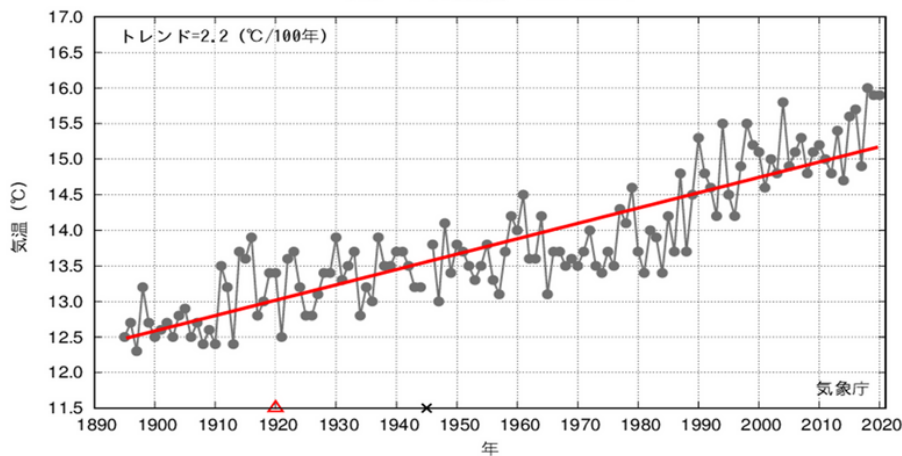
環境省の提唱するローカルSDGsとは、地域レベルで循環共生型の社会（「環境・生命文明社会」）を構築していこうという構想であり、各地域においての実践団体が登録される制度となります。

今回、つるエネルギーは地元の学生とともに脱炭素社会に向けた取り組みを行った点が評価され、ローカルSDGs企業として選出されました。

私たちはこれからも、「でんきから、エネルギーへ」という理念を旗印に、つる・郡内の地域未来拠点としての確かな実績を積み上げていきたいと思えます。

「グラフで一目瞭然」 —山梨の気温は上がってる？—

甲府 年平均気温 1895-2020年



シリーズ「グラフで一目瞭然」。忙しい時間の中でも一目でわかり、客観的数値で持つファクトを積み上げてことを目的とした本企画。

今回は、山梨県甲府の年平均気温推移。1895-2020年をグラフで表していますが、確かに気温上昇が見られます。

今日の結論：「気温は上昇傾向」

出典：A-PLAT

https://adaptation-platform.nies.go.jp/map/Yamanashi/index_past.html



コラム「つるエネメソッド」 —確かな繋がりへ—

連載コラム「つるエネメソッド」。

今回は、なぜ私たちは”でんき”ではなく、”エネルギー”という言葉に拘るのかについて。

私たちはよく「あ、つる電気さん」なんて呼ばれることがあります。その都度、「あ、いや、つるエネルギーと申しまして・・・」という修正を小さく入れさせてもらっています（笑）。確かに、「つる電気」のほうが、何をしている会社なのか分かるような気がしますが、あえてエネルギーという言葉に拘りたい。何故か。

つるエネルギーは、お一人お一人と積み重ねながら、ご契約をいただいております。その大部分の方とは、お電話であったり、メールであったり、直接お会いしていたりと、普通の電力会社よりも関係性が深いことが特徴だと思えます。そうすると、私たちは単なる消費者と生産者とか、契約者・お客様という風にはとどまらず、どこか肌触りのある温かい関係性が、そこにはあるように感じます。言葉で書くと簡単なのですが、まず最初に顔が浮かぶ。そんな方も多くいます。ある人からは、この「温かさ」がつるエネルギーを選んだ理由と言われたり、君を応援したい！と言ってくれる方もいらっしゃいます。本当に、とっても嬉しく思います。

一方で、この温かさというものが、ビジネスにおいては無駄なこと、邪魔なものとして認識されるようになり、何だか人間のエネルギーも下がっているような気さえしています。だからこそ、私たちはこの人間のエネルギーも含めて事業範囲として捉えています。そうでなければ、地域未来を語るなどできないと思うからです。

私たちは電気を「繋がり」として定義しています。人間の繋がりをテーマとする事業として、電力事業ほど相応しいものはない、とさえ思っています。

どの家庭にも伸びている電線。まさに人と人の繋がりで。ただ、今この繋がりにはエネルギーが少ない。この繋がりを、機能面だけでなく、本当の意味での「確かな繋がり」としていく試みが、地域電力会社の存在意義であり、つるエネルギーの存在意義だと思っています。

これまでの”電気”という定義を変え、電力、でもなく、パワーでもなく、私たちは”エネルギー”事業としていきたい。この志を旗印に、私たちは今日も、小さな訂正を入れさせてもらっています。

「つる電気さんだっけ？」

「あ、私たち、つるエネルギーと申しまして・・・」